



おどろきの超特急

皆さま 明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

元旦に起きたあまりにも無情な災害。このたびの能登半島地震で亡くなられた方々に、深く哀悼の意を捧げますと共に、被災された皆様、関係者の方々に、心よりお見舞いを申し上げます。

さて、福井藩十二か月年中行事絵巻の十一月に、藩主が将軍に献上する寒鱈を江戸に搬送する人足達の勇ましい姿が描かれています。下馬門をくぐり、多くの歓声に支えられ二日三夜、一時も休みなく走り抜いたようです。要した時間は最長で60時間程度。これは1時間に約10km、重い荷を背負いリレーして走破したことになります。凄いですね。

いま福井のまちは新幹線開業に沸いています。街中には高層ビルがそびえ胸躍ります。この時だからこそ語り部として江戸期の福井人の心意気も伝えたいですね。

今も昔もスピードある話題には誰もが元気をもらえるはずですから。

■水野和雄氏講演会(研修会) 「波着寺で転んだダルマさん」

11月5日一乗学アカデミー首唱

水野和雄氏をお招きして
会員の研修会を開催しました。

演題は「波着寺(なみつきでら)
で転んだダルマさん」です。

波着寺は日本達磨宗と関係があ
り、また、永平寺とも関係がある寺。

達磨宗は、平安時代末期から鎌倉時代初期の大日
方能忍が起こした禅宗の一派で、今は無くなって
いるようです。



研修会の様子

■県下のボランティアガイドが研修・交流

10月5日、25日 福井県観光ボランティア
ガイド連絡協議会の先進地視察が実施されま
した。5日は関ヶ原、25日は、舞鶴でした。
先進地を訪れ、とても参考になりました。



舞鶴市視察 田辺城

11月22日 金沢市で第10回目の観光
ボランティアガイド北陸大会が開催さ
れました。

各地からのボランティアガイドは約
300名余り、石川県青少年総合研修セ
ンターの大会議室は色とりどりのジャン
パーでにぎやかでした。



金沢市青少年総合
研修センターにて

■福井県と現場でトーク

12月12日 福井県交通まちづくり課の主任 田辺 毅氏を招き意見交換会を行いました。

福井城址復元整備の経緯について説明では、内堀の南西側に位置する石垣上に復元を予定している3階建て土塼の高さは約16mで大野城や丸岡城より約4m高くなり、建設期間は5～6年を要すること。少しでも早く期待したいとの声が出ました。御廊下橋、山里口御門や福の井の建屋など歴史を活かしたハード面の取り組み成果の説明があり、土塼の内部の活用については、今後検討していくとのことでしたが、会員からミニ図書館にしてはどうかとの意見も出ました。（江戸期は書類庫だったことからの発想）



語り部からは、①土、日、祭日の県庁1階ホール開放してほしい。（ガイド中にトイレを使用したい観光客への配慮、雨天時の雨よけ場所の確保などによるもの）②1階ホールのイベント活用推進。③県庁前広場に段差が無くなったことでの幅広いイベント活用、④年間を通じてお堀に貸しボートを浮かべてはどうか。⑤桜まつりの歴史ガイドイベントは県と一緒にこれからも継続したい。など市民・観光客が福井城址は楽しい場所と感ぜられる企画にもっと取り組んでほしいとの意見が多く出ました。

全体として和気あいの雰囲気での意見交換の場となり、今後、春祭り等の機会を通し、さらにお互いに協調しながら活動、事業推進していくことを確認し意見交換を終えました。

■救命講習会を開催しました！

9月25日 救命講習会 安全安心啓発活動を重視！
DVDの講座を見て心肺蘇生法や救急車の呼び方、
A E Dについて使用方法の講習を受けました。



講師は福井南消防署の方です



実技もがんばりました

■新人語り部のデビュー感想

道中メンバーの方々との笑いの
出る和気あいあいたした会話で、
終始終えることができました。

にわか勉強で今回挑みましたが、
私にとって素晴らしい経験をする
事ができました。福井城址の知ら
なかった部分が聞いて良かった、
と喜ばれました。もっと広く伝えて欲しいとも言わ
れました。この体験を糧に更に福井の歴史を深めた
いと思いました。



ガイドデビューしました！

ブログ うららのまち「語り部」ふくい



活動の様子や福井の歴史を発信しています。



ホームページ 歴NAVIふくい



ガイドや歴史講座などを紹介し、申込みを受け付けています。



YouTube 福井の歴史を紹介



福井の史跡や歴史などを配信しています。



よもやま話

おてぎね やり ふたつの御手杵の槍

井上 満枝

福井市は、結城秀康公越前入国400年を記念に、平成14年(2002年)4月13日に茨城県結城市と友好都市提携を結びました。これを機に、両市の6年生の子どもたちの交流が始まりました。お互いの歴史を知り、街を知り、夏休みを利用して、実際に見聞します。福井の子どもたちは、結城市で蔵美館(くらびかん)を見学し、「御手杵(おてぎね)の槍(やり)」について学習します。御手杵の槍は、養父結城晴朝(ゆうきはるとも)が1574年島田宿の名工五条義助に依頼した傑作、「天下三名槍」のひとつです。立派な槍と鞘(さや)に子どもたちは結城家と福井のつながりにあらためて驚きます。

結城家は秀康公亡き後、秀康の5男直基が結城家を継承します。これが松平大和守(やまどのかみ)、結城松平氏と称される所以です。引越し大名の異名があるくらいで江戸期最多の13回も転封していますが、武蔵の川越時代が一番長く、幕末の慶応2年までの7代100年でした。そして幕末に再び前橋藩に戻ります。そこで飛び地として、現在の東松山市に松山陣屋を置いて、川越も管理します。明治維新後は、松平氏は伯爵となり、大久保に邸宅を構えていましたが、東京大空襲の際、蔵が燃え、御手杵の槍はここで焼失するのです。

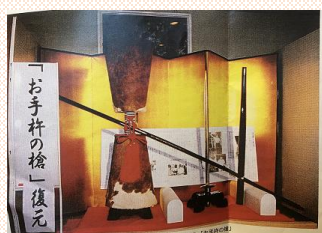
福井市と結城市が提携を結んでいた頃、静岡県島田では島田鍛冶を顕彰しようという動きが出てきました。そして元静岡県議会議員塚本昭一氏が中心となって御手杵の槍を復元します。のちに友好の証として縁の深い結城市に寄贈されました。蔵美館に所蔵されているのはその槍です。

一方で、平成27年(2015年)戦後70年を機に、曾祖父が松山陣屋の藩士だったという地元名士も、当時のゲーム「刀剣乱舞」のブームの影響もあり、御手杵の槍を復元し、松平大和守家が川越城主のころ崇拝していた箭弓(やきゅう)稲荷神社ご鎮座1300年祭に御手杵の槍を奉納いたしました。こうして現在、ふたつの御手杵の槍が存在します。

平成28年の夏、福井市立郷土歴史博物館が、催事で東松山市の御手杵の槍を展示していました。その時に訪れた福井市結城市の子どもたちは、「御手杵の槍がふたつある!」とびっくり。真相を聞いて、御手杵の槍が多くの人に愛されていることをしみじみ感じるのです。



夏休みに結城市の子どもたちが来福します



蔵美館の御手杵の槍



箭弓稲荷神社に奉納された御手杵の槍



【編集後記】

元旦の日に北陸を襲った未曾有の災害。被害の大きさに辛くなるばかりですが、1番被害が少なかった福井が先頭に立って、北陸を引っ張っていこう!北陸、前へ!

【発行】

福井市歴史ボランティアグループ「語り部」
(公財)歴史のみえるまちづくり協会